

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○化学物質—農薬

欧州食品安全機関(EFSA)、新興リスク情報交換会の2014年次報告書及び新興リスクに係る2014年のEFSAの活動に関する技術的報告書を公表

公表日：2015年7月9,10日 情報源：欧州食品安全委員会(EFSA)

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/doc/838e.pdf>

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/doc/839e.pdf>

欧州食品安全機関(EFSA)は7月9,10日、新興リスク情報交換会(EREN)の2014年次報告書(2015年6月26日承認、24ページ)と新興リスクに係る2014年のEFSAの活動に関する技術的報告書(2015年6月28日承認、11ページ)を公表した。これら2報の概要は以下のとおり。

新興リスク情報交換会は、EFSAとEU加盟諸国との間で食品及び飼料の安全性に対して起こりうる新興リスクについての情報を交換する目的で2010年に設立された。この連絡会は、2014年に会合を2回開催し、10件の課題(表において○と◎で示す)について議論し、そのうちの4課題(同◎で示す)を新興問題として検討されるべきとした。

さらに、EFSAの新興リスクに係る2014年の活動に関する技術的報告書は、18件(表の18課題)の課題を評価し(※)、そのうちの5件の課題(同★で示す)をフォローアップ課題と選定した。

	新興リスク課題	EFSA	EREN
1	食品中へのシアトキシンの混入	★	
2	化学物質のリスク評価の規定の検査におけるエピジェネティックな評価項目		
3	ブッシュミートとEU域内へのエボラウイルスの潜在的な移入	★	
4	マスクドマイコトキシン	★	
5	3Dプリントによる食品印刷		
6	汚染された土壌及び水から作物類(果実類及び野菜類)への重金属類の移行		
7	青果物に由来する公衆衛生事案における課題と傾向		
8	EU域内における西ナイル病の拡大		
9	イタリア南部におけるハチノスムクゲケシキスイ(<i>Aethina tumida</i>)の検出	★	○
10	腸壁に対する食品用乳化剤の長期影響		◎
11	新型のフレボウイルス属		○
12	加熱生成される食品汚染物質		○
13	イタリアにおけるアサリ中のオカダ酸群		◎
14	ザクロ果汁の代用品		○
15	他の動物種の食肉を混入させた子羊肉料理		○
16	フードチェーンにおける新興リスクとしてのクレンブテロール		○
17	サプリメントに使用されているビタミン類及びミネラル類以外の有効成分		◎
18	長鎖ポリフルオロアルキル化合物類及びパーフルオロアルキル化合物類(PFASs)から新しい代替フッ素化合物類への移行に伴う潜在的な課題	★	◎

★：フォローアップ課題 ○：検討課題 ◎：更なる検討課題

(※)EFSA の科学委員会・新興リスクユニット(SCER)、新興リスク情報交換連絡会(EREN)、新興リスクに関する利害関係者協議会(StaCG-ER)及び新興リスクに関する科学委員会常任作業部会(SWG-ER)で評価。

現在 EFSA で、実施中の活動は、

- (1) 複数の化学物質の複合毒性に関する系統的レビュー、
- (2) ハチにおける複数の化学物質へのばく露に関する毒性学的なモデリング研究、
- (3) リスク評価のためにヒトの生体モニタリングデータを利用することに関する研究、
- (4) ヒトのリスク評価に用いる化学物質の非単調用量反応作用に関する研究、
- (5) 食品中のシアノトキシン(訳注：シアノバクテリアが生産する毒素の総称)の含有量に関する研究などがある。

新興リスクの特定には、高いレベルの専門知識及び迅速な情報共有のための連絡網が必要である。

EFSA は、

- (1) EU 加盟国及び関係団体との連携の継続、
 - (2) 特定された実施中の活動を完了する。
- としている。

○関連情報(海外)

新興リスクの特定のため欧州食品安全機関(EFSA)が試行した手順の吟味及び今後の方向性について技術的報告書を公表

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/doc/824e.pdf>

EFSA、新興リスク情報交換連絡会の 2013 年次報告書を公表

<http://www.efsa.europa.eu/en/supporting/doc/682e.pdf>

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>) をご覧下さい